

ふくおか 古代ロマンの旅

福岡に 「神宿る島」?

たごりひめのかみ
宗像三女神の長女、田心姫神が鎮座する沖ノ島。
古代祭祀の変遷過程を今に伝えるものとして、
2009年1月に世界遺産暫定リストに記載された。



福岡に 卑弥呼の墓?

平原王墓発見状況の原寸大模型
(伊都国歴史博物館展示室)
※築造時期は卑弥呼が生きた
時代と重なり、被葬者も女性
とされる

福岡に 古代エジプト文明?

上/ 珍敷塚古墳(うきは市・6世紀ごろ)の壁画スケッチ
下/ セン・ネジェム墳墓(エジプト・紀元前14世紀ごろ)の壁画スケッチ
茂在寅男著『古代日本の航海術』(小学館)より転載



金印と邪馬台国時代の遺跡を巡る

福岡では、「漢委奴国王」の金印や、複数の弥生王墓が発見されている。平原王墓は、卑弥呼の墓という説や、卑弥呼の母親の墓という説もある。福岡の弥生時代の遺跡に、邪馬台国の謎を解く鍵があるかもしれない。

①福岡市博物館



福岡市早良区百道浜 3-1-1
TEL 092-845-5011

国宝の金印「漢委奴国王」を展示している。古くからアジアとの交流をとおりて発展してきた福岡の歴史や人々の暮らしを、最新の研究成果と展示方法で紹介している。

④平原遺跡



糸島市有田
TEL 092-323-1111 (糸島市文化課)

弥生時代後期から古墳時代前期にかけての5基の墳丘墓を中心とした遺跡。伊都国の王墓と考えられる1号墓は東西の長さ14m、南北の長さ10mの長方形の墳丘をもち、周りを溝が取り囲む。王墓には、中国の漢の時代に身分の高い女性が用いた耳環(じとう)といわれるピアスなど、多くの装飾品が副葬されていたことから、被葬者は女性と考えられている。また、王墓からは40枚にも及ぶ銅鏡も出土しており、ひとつの墓から出土した銅鏡の枚数は弥生時代では日本一である。



朝倉市・卑弥呼ちゃん

①海の道むなかた館



宗像市深田 588
TEL 0940-62-2600

館内の3Dシアターで、入島が許されない沖ノ島の神秘的な世界を音と映像でリアルに体験できる。宗像市内の遺跡から見つかった貴重な出土品も展示している。

②志賀海神社



福岡市東区志賀島 877
TEL 092-603-6501

2500年もの古くから篤く信仰されている神社。国宝「金印」が出土した志賀島に鎮座し、代々阿曇(あずみ)氏が祭祀を司る。4月と11月の山嘗祭(やまほめさい)では、「君が代」の歌詞が古より口上されている。

⑤伊都国歴史博物館



糸島市井原 916
TEL 092-322-7083

平原遺跡から出土した日本最大(直径46.5cm)の銅鏡「内行花文鏡」(国宝)や、同遺跡の発掘時の復元模型などを展示している。上記銅鏡は、三種の神器の一つ「八咫鏡」と同型という説もある。

⑥平塚川添遺跡



朝倉市平塚 444-4
TEL 0946-22-0001 (朝倉市文化課)

弥生時代後期の環濠集落で、邪馬台国の候補地の1つ。当時の住居や倉庫などが再現されている。併設された体験学習館では火おこしや勾玉づくりを体験できる。

②宗像大社・神宝館



宗像市田島 2331
TEL 0940-62-1311

「海の正倉院」と呼ばれる沖ノ島から出土し、国宝に一括指定された約8万点の祭祀遺物などを展示している。この他、宗像大社の歴史を知る上で重要な文化財が展示・保管されている。

③須玖岡本遺跡



春日市岡本 3-57
TEL 092-501-1144 (奴国の丘歴史資料館)

金印や魏志倭人伝でお馴染みの奴国の王墓や王族墓、青銅器などの工房が集中している遺跡。併設された「奴国の丘歴史資料館」では甕棺墓(かめかんぼ)を発掘された状態で見学できる。

②志賀海神社



福岡市博物館
博多駅 天神

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

③須玖岡本遺跡

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

⑥平塚川添遺跡

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

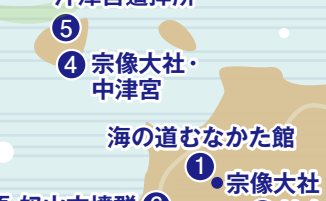
④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

④平原遺跡
⑤伊都国歴史博物館

⑤沖津宮遙拝所



④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

④宗像大社・中津宮
⑤沖津宮遙拝所

世界遺産暫定リスト掲載「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群に迫る

沖ノ島は、玄界灘のただ中に浮かぶ島であり、宗像大社の沖津宮が鎮座する。この島で航海の安全を祈る祭祀が行われ、多彩で貴重な品々が神に捧げられた。沖ノ島への上陸はできないが、宗像の地で神宿る島の神秘に触れることができる。



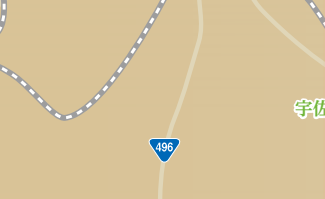
④宗像大社・中津宮



宗像市大島 1811
TEL 0940-72-2007

祭神は宗像三女神の次女、湍津姫神(たぎつひめのかみ)。古代の祭場でもあった御嶽山山頂に登ると、玄界灘や九州本土を一望できる。大島には神湊漁港(宗像市神湊487-51)から市営渡船で行くことができる。

⑤沖津宮遙拝所



宗像市大島 1293
TEL 0940-72-2007 (宗像大社中津宮)

沖ノ島への立ち入りが原則禁止されているため、遙拝所は沖ノ島を拝する拝殿の役割を果たしている。よく晴れて空気の澄みきった日に訪れると、水平線上に浮かぶ幽玄な沖ノ島を遥拝することができる。

⑥新原・奴山古墳群



福津市勝浦・奴山
TEL 0940-52-4968 (福津市文化財係)

沖ノ島祭祀を行った古代豪族「宗像氏(胸形君)」一族の墓とされる古墳群。5基の前方後円墳を含む41基の古墳が点在している。宗像氏は航海術に優れた一族で、対外交流に従事したと考えられている。

個性溢れる福岡の古墳を巡る

石人・石馬、装飾壁画、積石塚など、多彩な古墳文化が開花した福岡。珍敷塚古墳の装飾壁画は、古代エジプト文明とのつながりを思わせる。福岡の古墳には、海を歩き来した古代日本人のロマンが詰まっている。

①岩戸山古墳



八女市吉田1396-1
TEL 0943-23-1982 (八女市文化課)

北部九州最大の方後円墳で、筑紫君磐井の墓とされる。古墳の東北隅に方形区画があるのが特徴。『筑後国風土記』によれば「衙頭」と呼ばれ、石人を使って裁判の情景を再現したとされる。

③王塚古墳



嘉穂郡桂川町寿命 376
TEL 0948-65-2900 (王塚装飾古墳館)

日本を代表する超一級の装飾古墳で、国指定特別史跡。石室は春と秋の年2回一般公開されており、併設された「王塚装飾古墳館」には石室の実物大のレプリカが展示されている。

⑤宮地嶽古墳



福津市宮司元町7-1
TEL 0940-52-4968 (福津市文化財係)

現在は宮地嶽神社の奥の院・不動神社を祀る。横穴式石室の長さは23mで全国で2番目。金銅製の冠などが発見された。毎年1月28日、2月28日、7月28日は内部への立入が可能。

②珍敷塚古墳



うきは市吉井町富永649-3
TEL 0943-75-3343 (うきは市生涯学習課)

この壁画には、ここに葬られた人物が、太陽の輝く陽の世界から、月を支配する陰の世界へ、鳥の導く船で現世から来世へと旅立とうとする姿が表されているといわれている。※石室の見学は要事前連絡

④相島積石塚群



糟屋郡新宮町相島
TEL 092-962-5511 (新宮町立歴史資料館)

積石塚とは、墳丘を石だけで造ったり、石と土を混ぜ合わせて造った古墳。相島の長井浜では254基もの積石塚が確認されている。相島には新宮漁港(新宮町湊437-2)から町営渡船で行くことができる。

⑥九州国立博物館



太宰府市石坂4-7-2
TEL 050-5542-8600

「地下の正倉院」と呼ばれる宮地嶽古墳から出土した全長3m前後の大型の金銅装頭椎大刀、金銅壺鍔、金銅透彫冠、瑠璃板をはじめ、数多くの国宝、重要文化財を展示している。

日本古代史略年表



桂川町王塚装飾古墳館
古代くん

弥生時代

前 1 世紀

このころ、倭は百余国に分かれていた(『漢書』地理志)
このころから、須玖岡本遺跡とその周辺で青銅器の生産が始まる
このころ、須玖岡本遺跡の王墓が築かれる

1 世紀

57年

倭奴国王、後漢に遣使。光武帝より「漢委奴国王」の印綬を賜る(『後漢書』東夷列伝)

2 世紀

107年

倭国王帥升等が後漢に遣使する(『後漢書』東夷列伝)

このころ、平塚川添遺跡に大型建物が建てられる(集落は3世紀まで続く)

後 半

倭の国は大いに乱れていた(『後漢書』東夷列伝)

3 世紀

前 半

このころ、平原遺跡の王墓が築かれる

239年

邪馬台国の女王卑弥呼が魏に遣使し、「親魏倭王」の称号、金印紫綬、銅鏡百枚を賜る(『魏志』倭人伝)

中 ころ

卑弥呼が亡くなる(『魏志』倭人伝)

266年

倭の女王(壺与<台与>か)が晋に遣使する(『晋書』)※この後約150年間、中国の歴史書に日本に関する記述なし

4 世紀

後 半

このころから、沖ノ島で岩上祭祀が開始される(5世紀前半まで続く)

終 わり

このころから、相島に積石塚が築かれる(6世紀まで続く)

5 世紀

413年

倭王(讃?)が東晋に遣使する(『晋書』)

後 半

このころから、沖ノ島で岩陰祭祀が開始される(7世紀まで続く)

6 世紀

前 半

このころ、岩戸山古墳が築かれる

527年

筑紫国造磐井が反乱を起こすが、敗れる(『日本書紀』継体紀)

中 ころ

このころ、王塚古墳が築かれる

後 半

このころ、珍敷塚古墳が築かれる

593年

推古天皇、厩戸皇子(聖徳太子)を摂政とする(『日本書紀』推古紀)

7 世紀

607年

小野妹子が隋に派遣される(『日本書紀』推古紀)

前 半

このころ、宮地嶺古墳が築かれる

645年

乙巳の変が起きる(『日本書紀』皇極紀)

中 ころ

このころ、胸形君徳善の娘、尼子娘が大海人皇子(天武天皇)の後となる。

663年

白村江で唐・新羅連合軍に敗れる(『日本書紀』天智紀)

後 半

このころから、沖ノ島で半岩陰半露天祭祀が開始される(8世紀前半まで続く)

古墳時代

飛鳥時代

お問い合わせ先

福岡県大阪事務所

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目3番1号-900 大阪駅前第1ビル9階

TEL:06-6341-3627 FAX:066341-3622 E-mail:oosaka-o@pref.fukuoka.lg.jp

[発行] 福岡県観光推進協議会 [編集] 福岡県大阪事務所

平成27年3月発行